
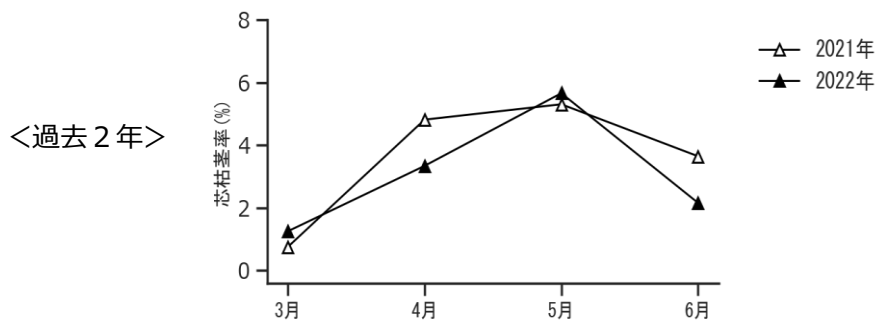
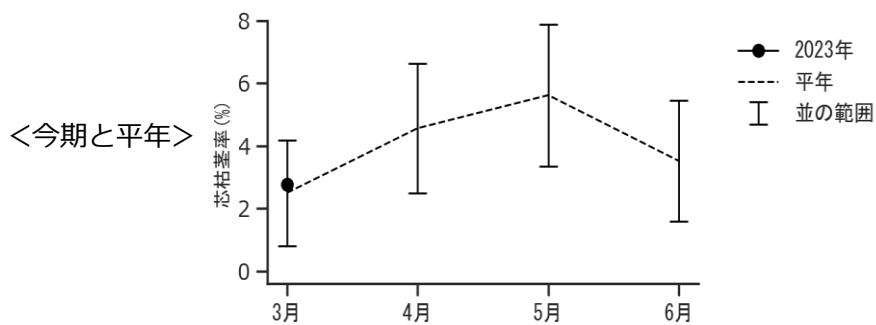


作物	さとうきび		地域	沖縄群島
病害虫名	① メイチュウ類(カンシャシクイハマキ・イネヨトウ)			
調査結果	3 月の発生量 (平年比)	並		
予報	3 月からの増減傾向	↗		
	4 月の発生量 (平年比)	並		
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↗)		

調査結果


芯枯茎率の推移



- ・ 茎内で発見したメイチュウ類のうち、優先種はイネヨトウであった。
- ・ 発生ほ場率60.0% (平年 : 78.8%)

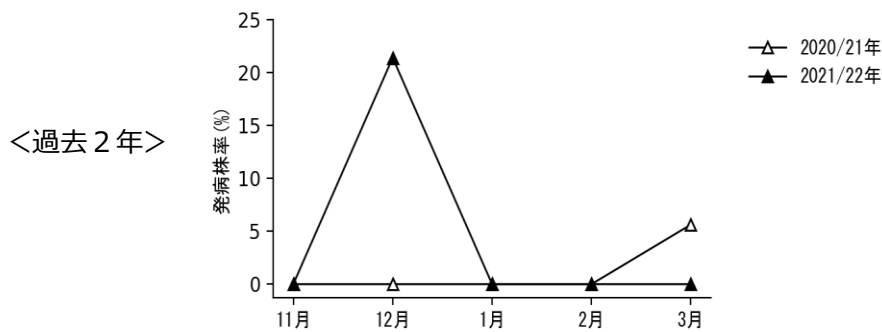
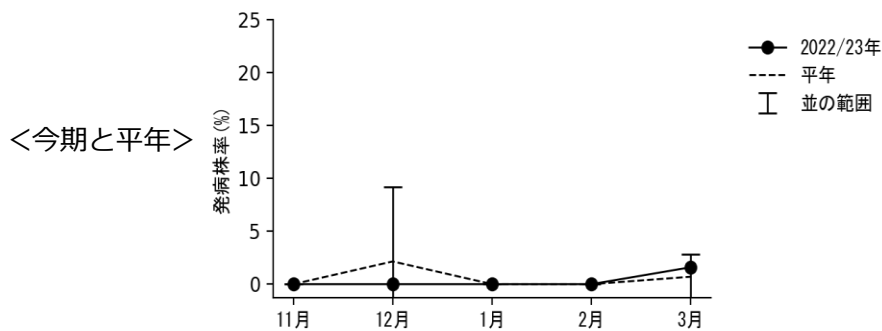
防除のポイント

- ・ ふ化した幼虫は、葉裏や葉鞘部から下部に移動した後、地上部の芽や根帯から食入し、生長点を加害して芯枯れを起こさせ茎を枯死させる。
- ・ ほ場内外のイネ科雑草は発生源となるため除去する。
- ・ 加害による芯枯れを防止し有効茎を確保するため、植付けおよび株出し管理時から生育初期にかけての防除を徹底する。

作物	キャベツ	地域	沖縄群島
病害虫名	黒腐病		
調査結果	3 月の発生量（平年比）	並	
予報	3 月からの増減傾向	—	
	4 月の発生量（平年比）	—	
予報の根拠			

調査結果


発病株率の推移



・発生ほ場率80.0%（平年：5.0%）

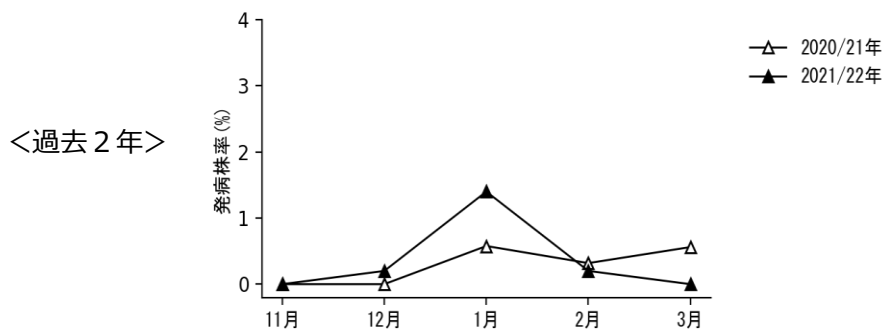
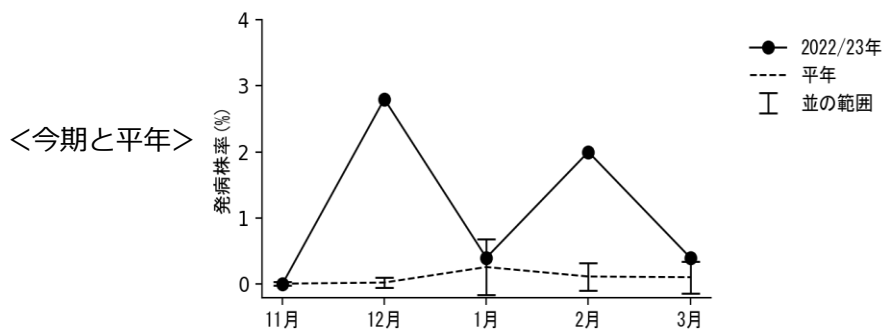
防除のポイント

- ・圃場の排水を良くするとともに、密植栽培を避けて通風をよくする。
- ・害虫の食害痕は病原菌の侵入口となるので、害虫の防除も徹底する。
- ・多発すると防除が困難になるため早期発見・防除に努める。
- ・本病が発生しやすい作物での輪作・連作は避ける。

作物	キャベツ	地域	沖縄群島
病害虫名	菌核病		
調査結果	3 月の発生量（平年比）	やや多	
予 報	3 月からの増減傾向	—	
	4 月の発生量（平年比）	—	
予報の根拠			

調査結果


発病株率の推移



・発生ほ場率20.0%（平年：12.5%）

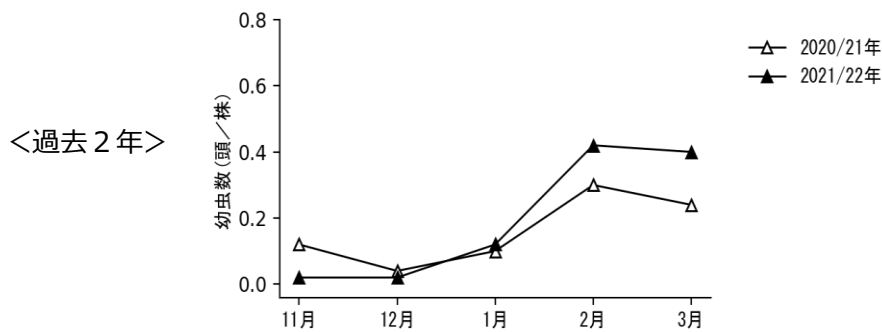
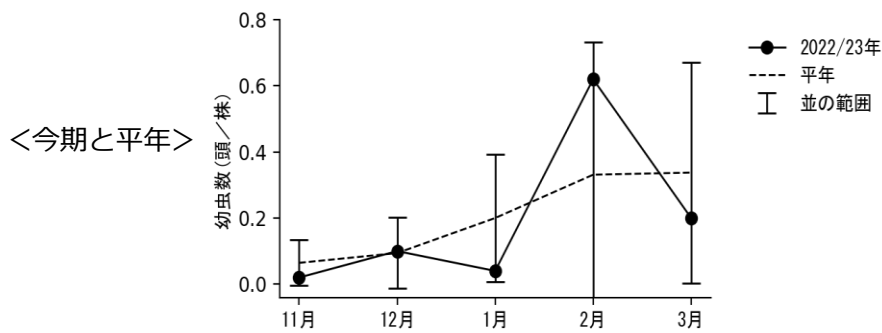
防除のポイント

- ・密植栽培を避けて、通風をよくする。
- ・被害株は菌核を形成しないうちに、早めに抜き取り、ビニール袋などに入れてほ場外へ持ち出し処分する。
- ・多発すると防除が困難になるため、早期発見・防除に努める。
- ・本病が発生しやすい作物での輪作・連作は避ける。
- ・多発したほ場では、休閑期に天地返しや土壌消毒を行う。

作物	キャベツ	地域	沖縄群島
病害虫名	コナガ		
調査結果	3 月の発生量 (平年比)	並	
予報	3 月からの増減傾向	—	
	4 月の発生量 (平年比)	—	
予報の根拠			

調査結果


幼虫数の推移



・発生ほ場率40.0% (平年 : 55.0%)

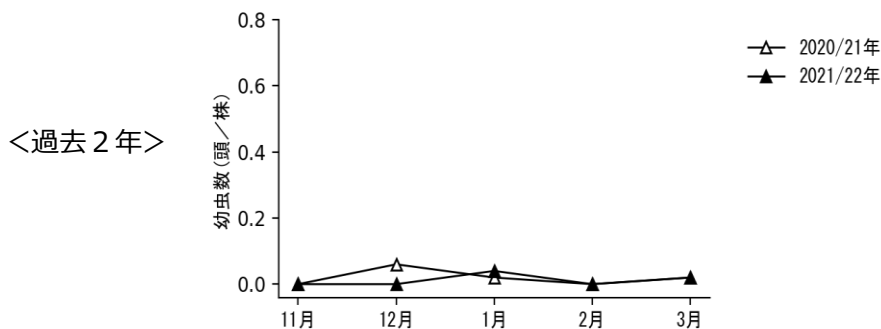
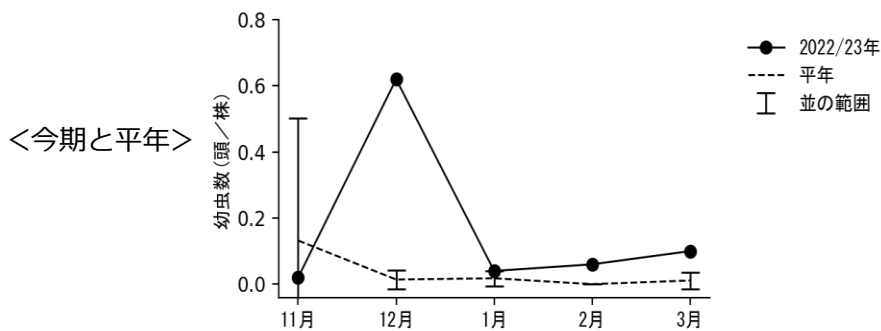
防除のポイント

- ・ほ場周辺のアブラナ科雑草の除去および収穫後の残さ処理を徹底し、ほ場管理に努める。
- ・多発すると防除が困難になるので、低密度時に薬剤防除を行う。
- ・薬剤抵抗性がを発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。

作物	キャベツ	地域	沖縄群島
病害虫名	チョウ目幼虫		
調査結果	3 月の発生量 (平年比)	やや多	
予報	3 月からの増減傾向	—	
	4 月の発生量 (平年比)	—	
予報の根拠			

調査結果

幼虫数の推移



- ・発生種：モンシロチョウ
- ・発生ほ場率20.0% (平年：6.7%)

防除のポイント


- ・ほ場内の雑草および収穫後の残さ処理を徹底し、ほ場管理に努める。
- ・新しい食害痕やを発見したら、速やかに薬剤を散布する。



ハスモンヨトウ

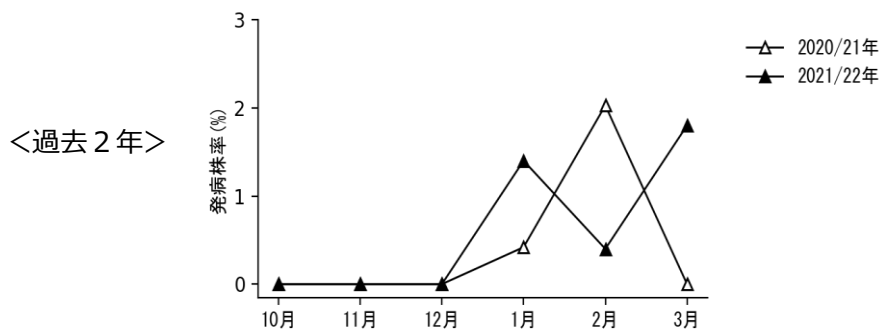
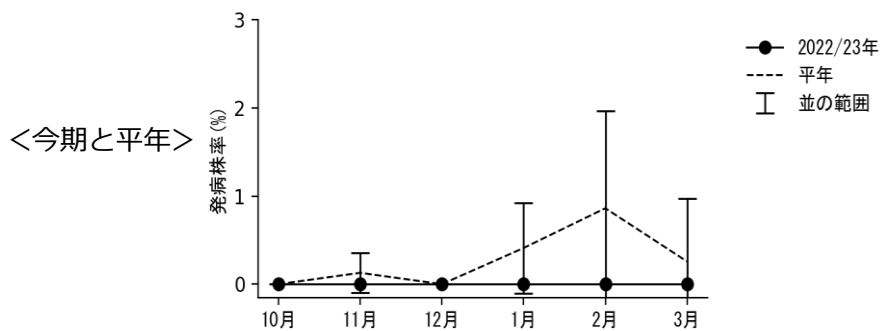


タマナギンウワバ

作物	レタス	地域	沖縄群島
病害虫名	軟腐病		
調査結果	3 月の発生量 (平年比)	(発生なし)並	
予 報	3 月からの増減傾向	—	
	4 月の発生量 (平年比)	—	
予報の根拠			

調査結果

発病株率の推移



・発生ほ場率0% (平年 : 5.7%)

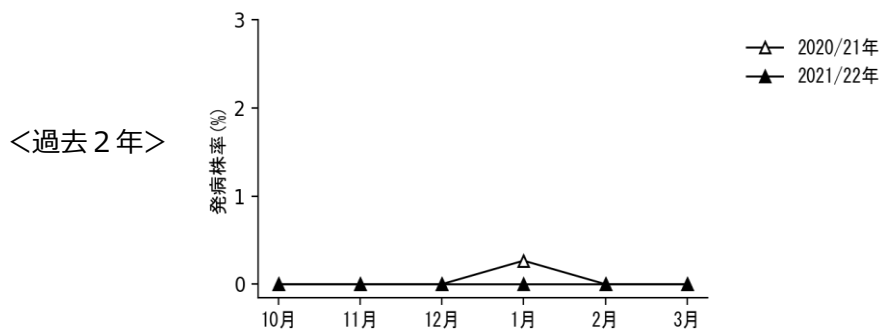
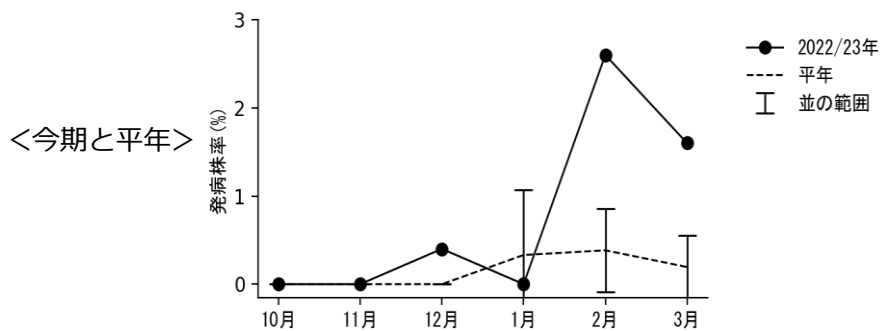
防除のポイント

- ・ほ場の排水を良くするとともに、密植栽培を避けて通風をよくする。
- ・菌の侵入源となる傷口の発生を助長するヨトウ類の幼虫やナメクジなどの駆除に努める
- ・発病株は放置せずに抜き取り、ほ場外に持ち出し処分する。
- ・薬剤散布は予防を主として、株元を中心に、丁寧に行う。
- ・本病が発生しやすい作物での輪作・連作は避ける。
- ・多発したほ場は、休閑期に天地返しや土壌消毒を行う。

作物	レタス	地域	沖縄群島
病害虫名	菌核病		
調査結果	3 月の発生量 (平年比)	やや多	
予報	3 月からの増減傾向	—	
	4 月の発生量 (平年比)	—	
予報の根拠			

調査結果


発病株率の推移



・発生ほ場率60.0% (平年 : 18.8%)

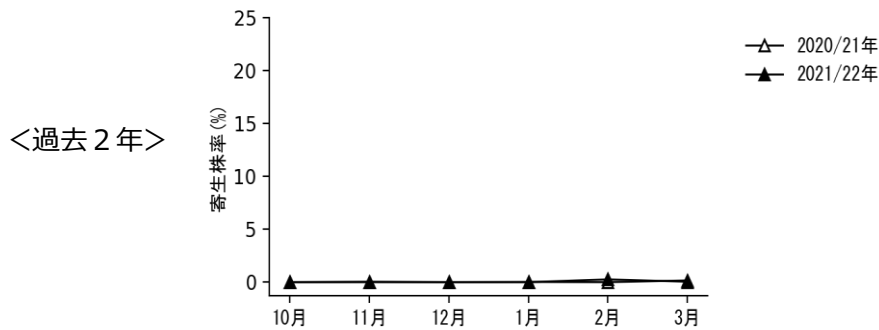
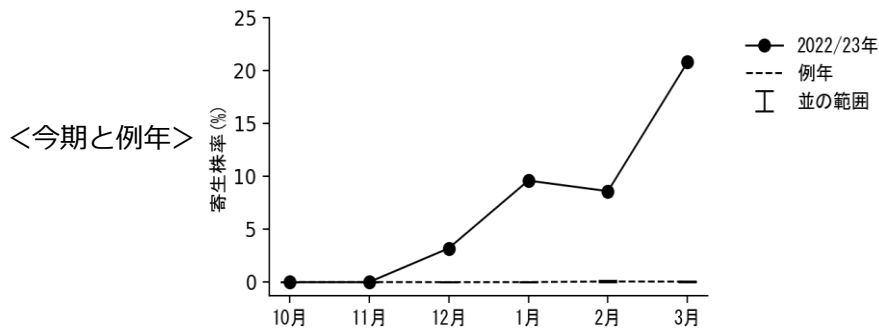
防除のポイント

- ・密植栽培を避けて、通風をよくする。
- ・被害株は菌核を形成しないうちに早めに抜き取り、ビニール袋などに入れほ場外に持ち出し処分する。
- ・薬剤散布は予防を主として、株元を中心に、丁寧に行う。
- ・本病が発生しやすい作物での輪作・連作は避ける。
- ・多発したほ場は、休閑期に天地返しや土壌消毒を行う。

作物	レタス	地域	沖縄群島
病害虫名	アブラムシ類		
調査結果	3 月の発生量 (平年比)	多	
予報	3 月からの増減傾向	—	
	4 月の発生量 (平年比)	—	
予報の根拠			

調査結果

寄生株率の推移



・発生ほ場率100% (例年：30.0%)

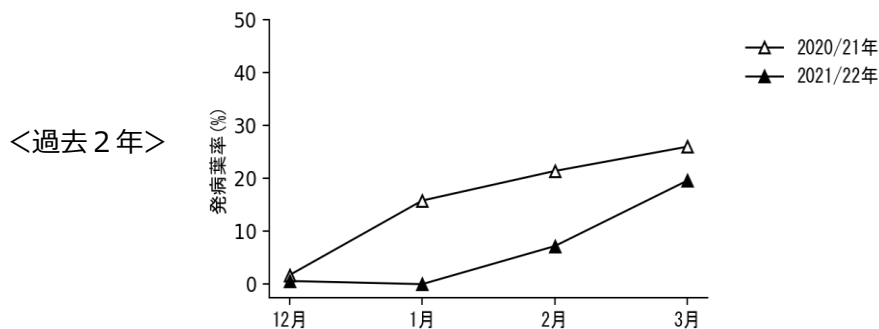
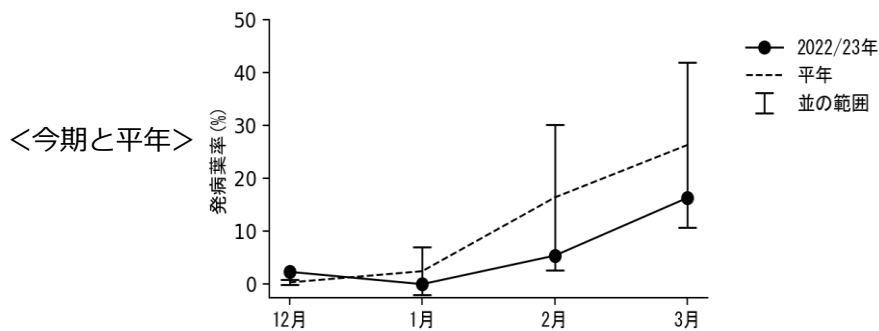
防除のポイント

- ・ほ場周辺の雑草は本種の発生源になるため除去する。
- ・植え付け時に粒剤を施用し、初期防除に努める。
- ・早期発見に努め、適宜薬剤散布を行う。

作物	かぼちゃ	地域	沖縄群島
病害虫名	うどんこ病		
調査結果	3 月の発生量 (平年比)	並	
予 報	3 月からの増減傾向	—	
	4 月の発生量 (平年比)	—	
予報の根拠			

調査結果


発病葉率の推移



・発生ほ場率100% (平年 : 80.0%)

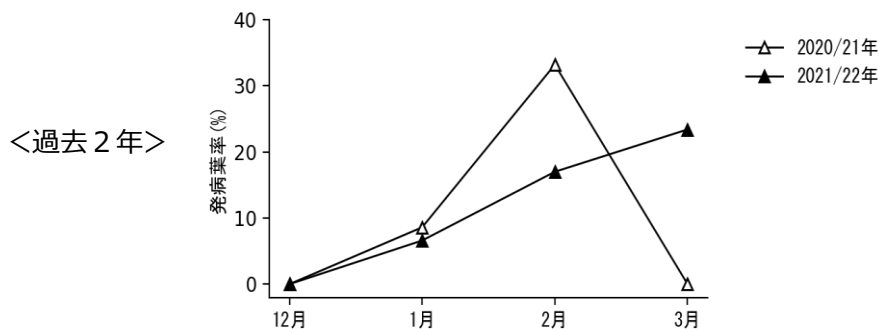
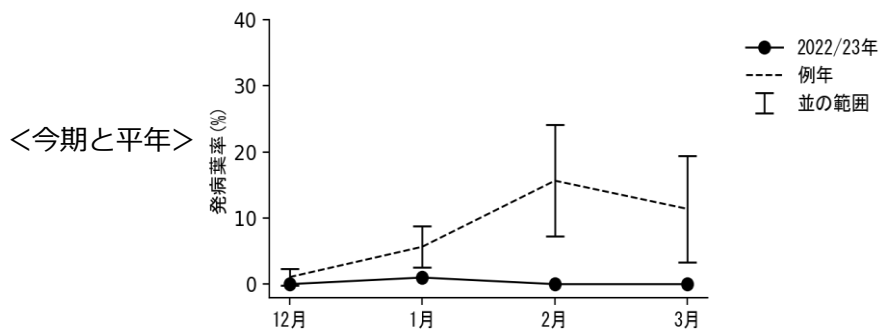
防除のポイント

- ・着果期以降は草勢の低下に伴い被害が急激に広がる場合があるので防除を徹底する。
- ・発生源となる老葉や不要な下葉を除去し、透光通風を良くする。
- ・窒素質肥料の多用を避け、予防散布を行う。
- ・薬剤耐性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。

作物	かぼちゃ	地域	沖縄群島
病害虫名	斑点・褐斑細菌病		
調査結果	3 月の発生量 (平年比)	やや少	
予報	3 月からの増減傾向	—	
	4 月の発生量 (平年比)	—	
予報の根拠			

調査結果


発病葉率の推移



・発生ほ場率0% (例年 : 57.1%)

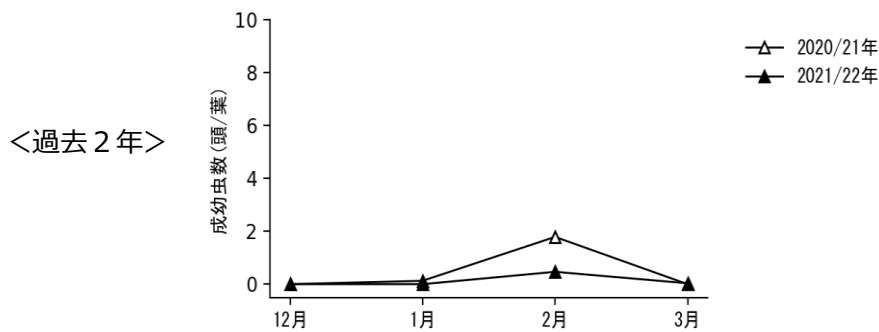
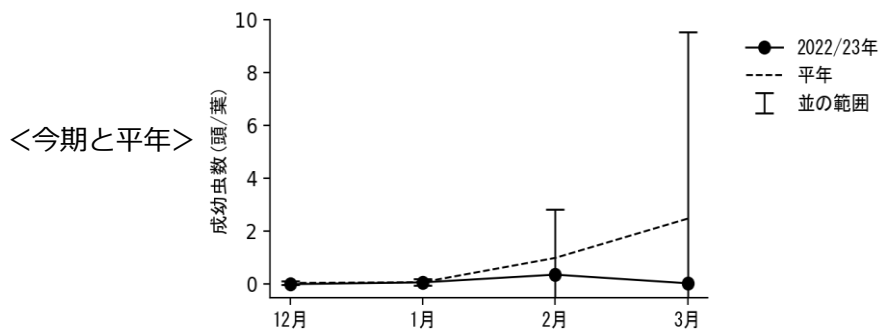
防除のポイント

- ・強風による葉すれ等の傷口から感染するため、防風垣（ソルゴーや防風ネット等）を設置する。
- ・降雨や強風などの気象条件が続くと急激に広がる場合があるので、強風降雨の後は薬剤散布を行う。

作物	かぼちゃ	地域	沖縄群島
病害虫名	アブラムシ類		 <p>有翅虫</p>
調査結果	3 月の発生量 (平年比)	並	
予報	3 月からの増減傾向	—	
	4 月の発生量 (平年比)	—	
予報の根拠			

調査結果

成幼虫数の推移



・発生ほ場率33.3% (平年 : 42.5%)

防除のポイント

- ・アブラムシ類はズッキーニ黄斑モザイクウイルスやパパイヤ綸点ウイルス等を媒介する。
- ・多くの雑草が発生源となりうるので、ほ場周辺の雑草除去に努める。
- ・ほ場周辺に防風対策を兼ねた防虫ネットやソルゴー等を設置し、有翅虫の飛来侵入を防ぐ。
- ・葉裏をよく観察し、早期発見・防除に努める。

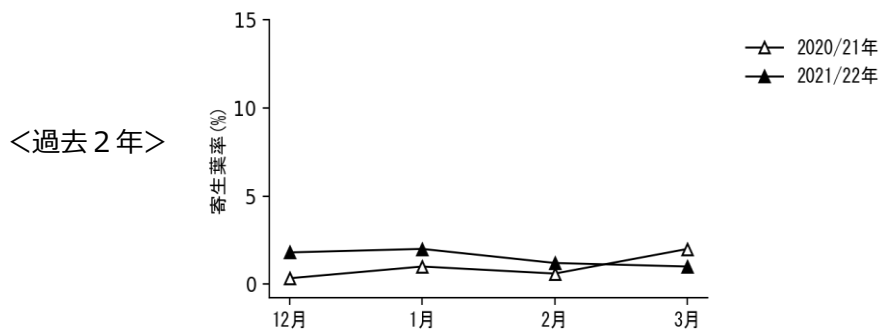
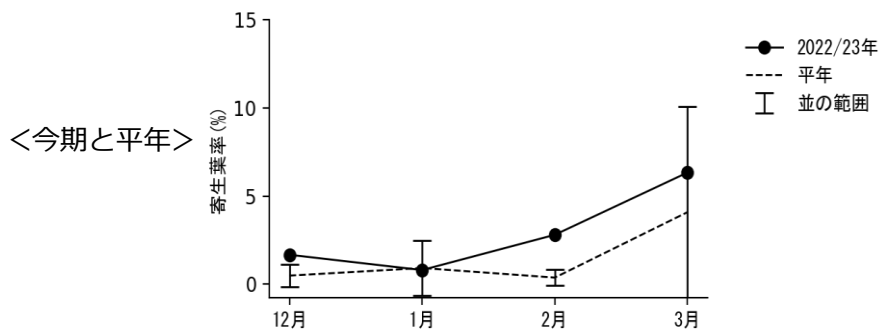


無翅虫

作物	かぼちゃ	地域	沖縄群島
病害虫名	ハモグリバエ類		
調査結果	3 月の発生量 (平年比)	並	
予報	3 月からの増減傾向	—	
	4 月の発生量 (平年比)	—	
予報の根拠			

調査結果

寄生葉率の推移




・発生ほ場率66.7% (平年 : 40.0%)

防除のポイント

- ・多発すると防除が困難になること、また寄生痕からうどんこ病や細菌性病害が侵入する場合があることから、発生初期の防除を徹底する。
- ・発生源となるほ場周辺の雑草除去に務める。
- ・幼虫期間が短いため、葉面に産卵痕や食害痕が見え始めたら防除を開始する。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。
- ・防除効果は幼虫の体色で判断する。生存時は黄色で死亡すると黒変する。

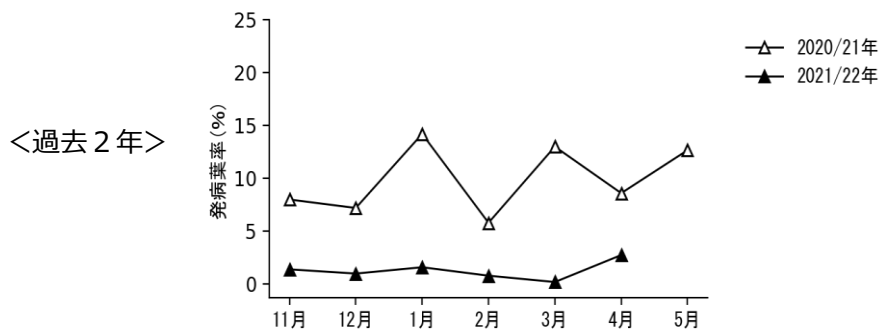
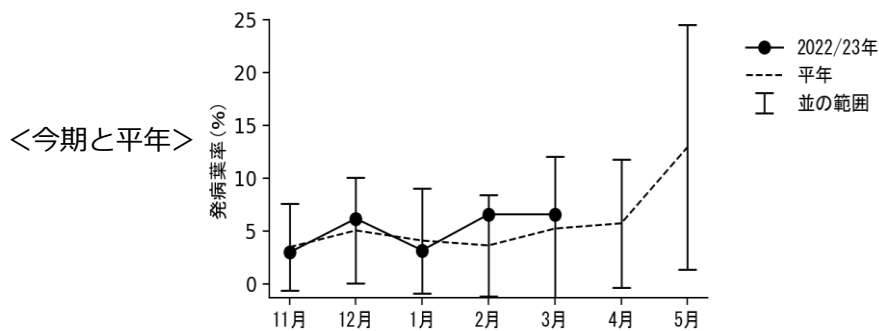
幼虫の死骸
(農薬などで死亡すると黒色に変色)



作物	ニガウリ(施設)		地域	沖縄群島
病害虫名	① うどんこ病			
調査結果	3 月の発生量 (平年比)	並		
予 報	3 月からの増減傾向	→		
	4 月の発生量 (平年比)	並		
予報の根拠		平年の発生量の推移 (→)		

調査結果


発病葉率の推移



・発生施設率60.0% (平年：34.0%)

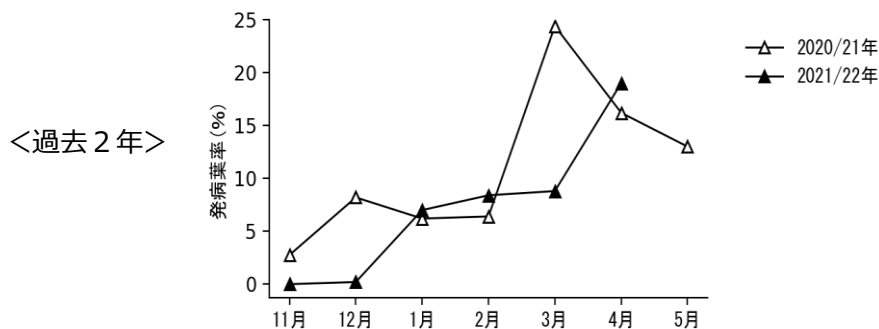
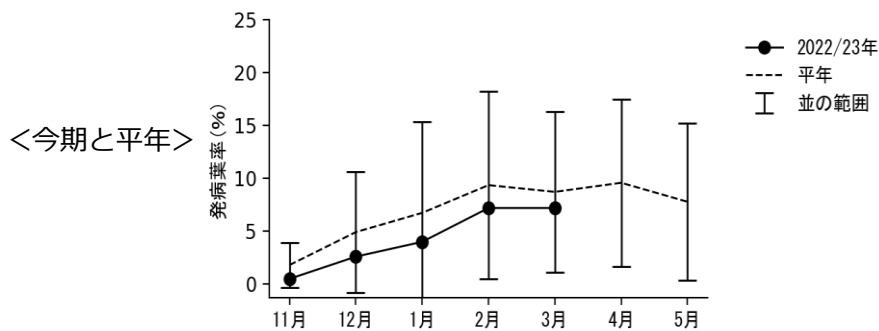
防除のポイント

- ・多湿条件で発生し、その後乾燥が続くと被害が拡大するため、湿度管理に注意する。
- ・過繁茂を避け、透光通風を良くする。
- ・老葉や病葉は発生源になるので除去し、施設外に持ち出し処分する。
- ・多発すると防除が困難になるため、予防散布に重点をおく。硫黄粉剤による予防は効果が期待できる。

作物	ニガウリ(施設)		地域	沖縄群島
病害虫名	② 斑点病			
調査結果	3 月の発生量 (平年比)	並		
予報	3 月からの増減傾向	→		
	4 月の発生量 (平年比)	並		
予報の根拠		平年の発生量の推移 (→)		

調査結果


発病葉率の推移



・発生施設率100% (平年：53.2%)

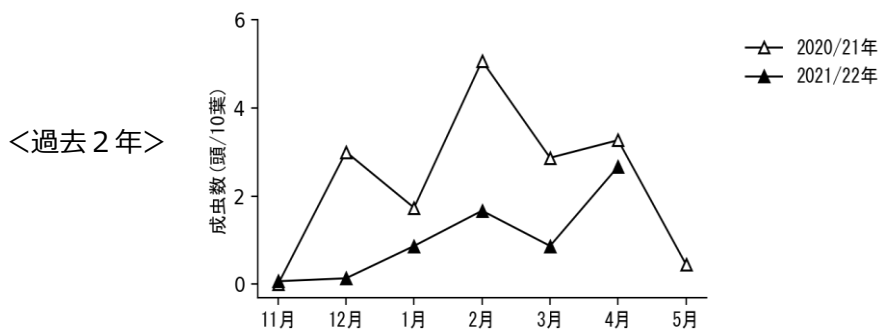
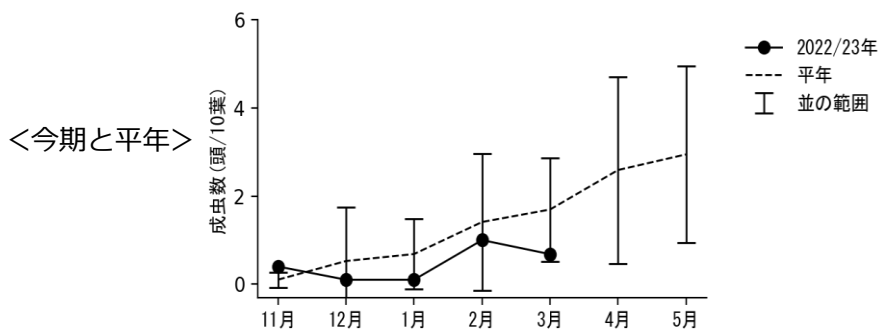
防除のポイント

- ・葉には周囲が黄色で中央が灰色の円形病斑を形成し、果実では表面にすす状のカビを生じる。
- ・多湿条件で発生が助長されるため、湿度管理に注意する。
- ・過繁茂を避け、透光通風をよくする。
- ・老葉や病葉は発生源になるので、施設外に持ち出し処分する。
- ・雨漏りする場所での発生が多くなるため、ビニールの破れ等は補修する。

作物	ニガウリ(施設)		地域	沖縄群島
病害虫名	③ ミナミキイロアザミウマ			
調査結果	3 月の発生量 (平年比)	並		
予報	3 月からの増減傾向	↗		
	4 月の発生量 (平年比)	並		
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↗)		

調査結果


成虫数の推移



・発生施設率60.0% (平年 : 56.8%)

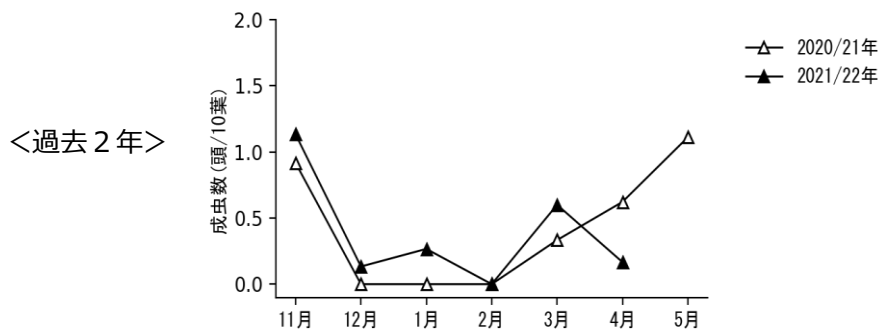
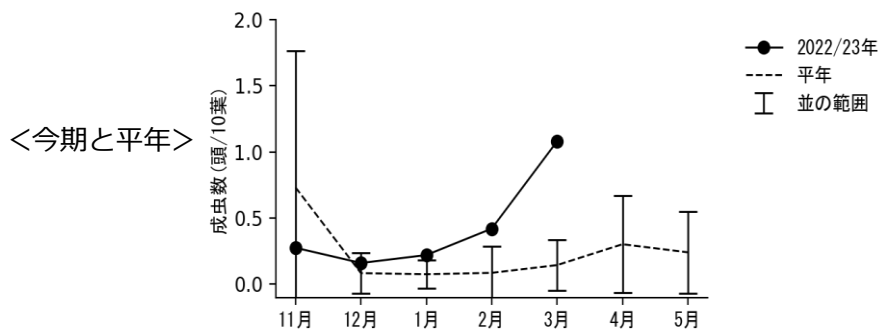
防除のポイント

- ・本種は吸汁により果実表面にケロイド状の被害を生じるほか、スイカ灰白色斑紋ウイルスを媒介する。
- ・多くの雑草が発生源となりうるので、施設内外の雑草除去に努める。
- ・施設の出入口や天窓は目合い0.6ミリ以下のネット等で被覆し、成虫の侵入を防ぐ。
- ・多発すると防除が困難になるので、つる先や葉裏をよく観察し、早期発見・防除に努める。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。

作物	ニガウリ(施設)		地域	沖縄群島
病害虫名	④ タバココナジラミ			 <p>成虫</p>
調査結果	3 月の発生量 (平年比)	やや多		
予報	3 月からの増減傾向	↗		
	4 月の発生量 (平年比)	やや多		
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↗)		

調査結果

成虫数の推移




・発生施設率60.0% (平年：21.6%)、一部施設で多発

防除のポイント

- ・多くの雑草が発生源となりうるので、施設内外の雑草除去に努める。
- ・施設の出入口や天窗は目合い0.6ミリ以下のネット等で被覆し、成虫の侵入を防ぐ。
- ・黄色粘着テープ等により、早期発見・防除に努める。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避け、気門封鎖系等の薬剤も利用する。
- ・幼虫は下位葉の葉裏に多いことに留意しながら薬剤散布を行う。

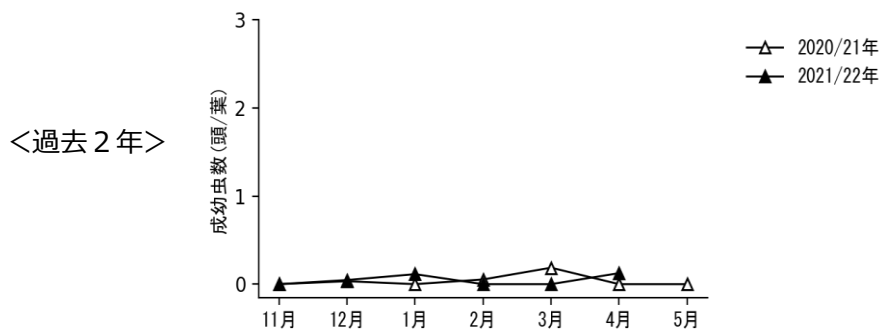
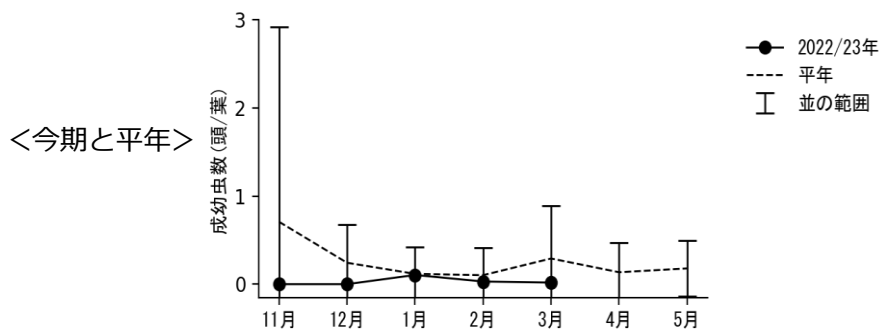


幼虫

作物	ニガウリ(施設)		地域	沖縄群島
病害虫名	⑤ アブラムシ類			
調査結果	3 月の発生量 (平年比)	並		
予報	3 月からの増減傾向	↘		
	4 月の発生量 (平年比)	並		
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↓)		

調査結果

成幼虫数の推移



・発生施設率40.0% (平年 : 13.5%)

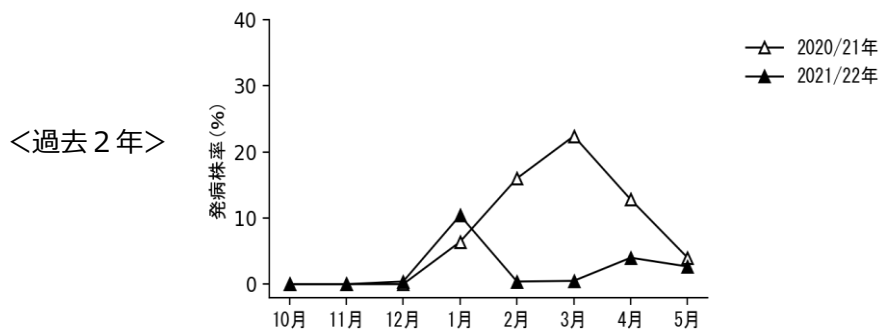
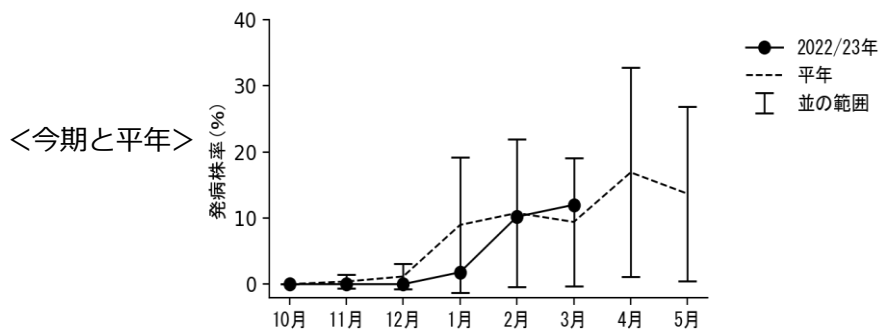
防除のポイント

- ・アブラムシ類はズッキーニ黄斑モザイクウイルスやパパイヤ綸点ウイルス等を媒介する。
- ・多くの雑草が発生源となりうるので、施設内外の雑草除去に努める。
- ・施設の出入口や天窓は0.6ミリ以下のネット等で被覆し、有翅虫の侵入を防ぐ。
- ・早期発見に努め、薬剤が葉裏にかかるよう丁寧に散布する。

作物	ピーマン(施設)		地域	沖縄群島
病害虫名	① うどんこ病			
調査結果	3 月の発生量 (平年比)	並		
予報	3 月からの増減傾向	↗		
	4 月の発生量 (平年比)	並		
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↗)		

調査結果


発病株率の推移



・発生施設率60.0% (平年 : 40.7%)

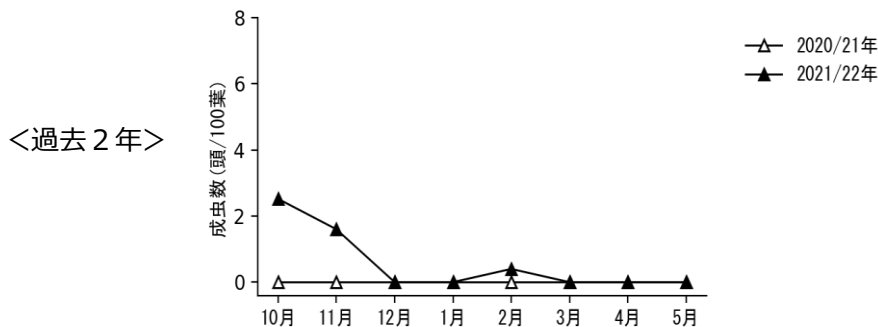
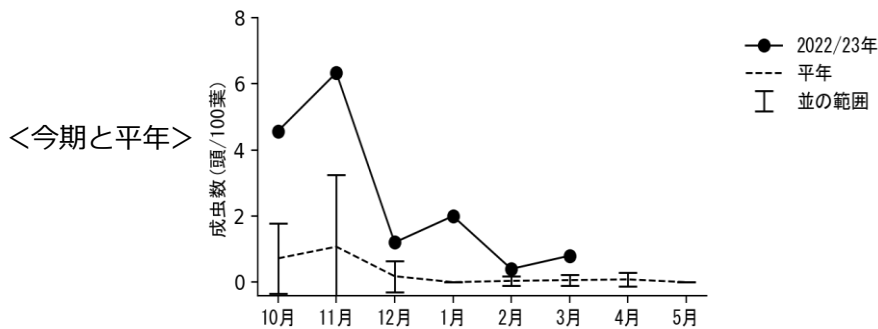
防除のポイント

- ・多湿条件で発生し、その後乾燥が続くと被害が拡大するため、湿度管理に注意する。
- ・過繁茂を避け、透光通風を良くする。
- ・病葉は発生源になるので除去し、施設外に持ち出し処分する。
- ・多発すると防除が困難となるので、葉をよく観察し早期発見・防除に努める。

作物	ピーマン(施設)		地域	沖縄群島
病害虫名	② ミナミキイロアザミウマ			
調査結果	3 月の発生量 (平年比)	やや多		
予報	3 月からの増減傾向	→		
	4 月の発生量 (平年比)	やや多		
予報の根拠		平年の発生量の推移 (→)		

調査結果


成虫数の推移



・発生施設率40.0% (平年：4.1%)

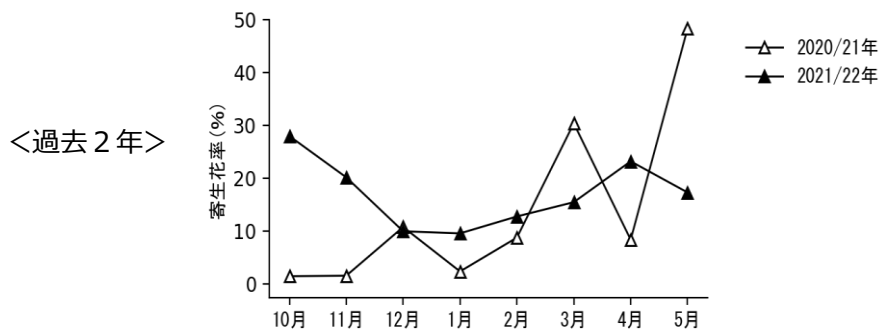
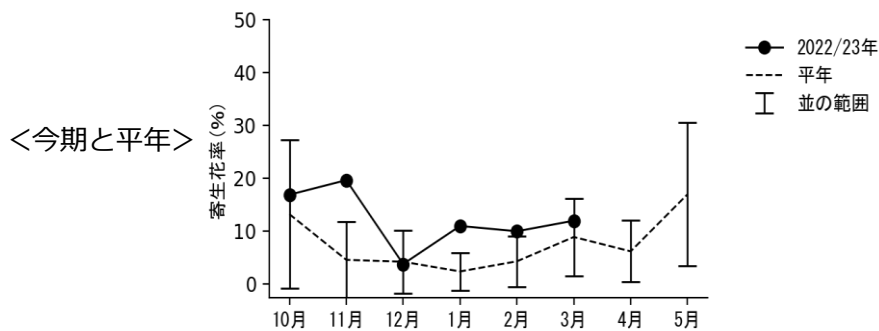
防除のポイント

- ・本種はスイカ灰白色斑紋ウイルス等を媒介する。
- ・多くの雑草が発生源となりうるので、施設内外の雑草除去に努める。
- ・施設の出入口や天窓は0.6ミリ以下のネット等で被覆し、成虫の侵入を防ぐ。
- ・繁殖力が高く多発すると防除が困難になるため、青色粘着板等を用い早期発見・防除に努める。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。
- ・天敵を利用している施設では、天敵に影響の少ない選択性殺虫剤を選定する。

作物	ピーマン(施設)		地域	沖縄群島
病害虫名	③ ヒラズハナアザミウマ			
調査結果	3 月の発生量 (平年比)	並		
予報	3 月からの増減傾向	↘		
	4 月の発生量 (平年比)	並		
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↓)		

調査結果


寄生花率の推移



・発生施設率70.0% (平年 : 33.3%)

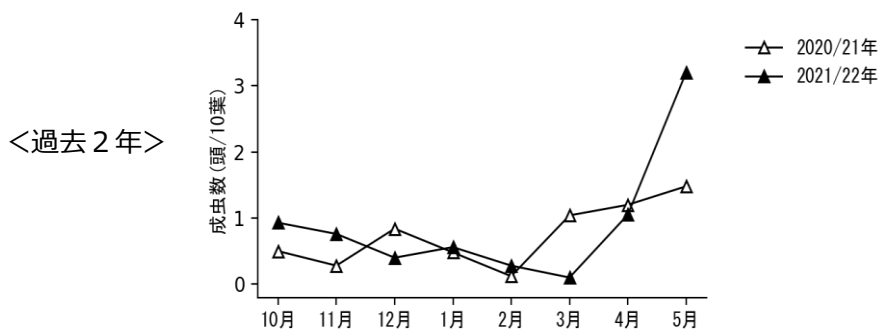
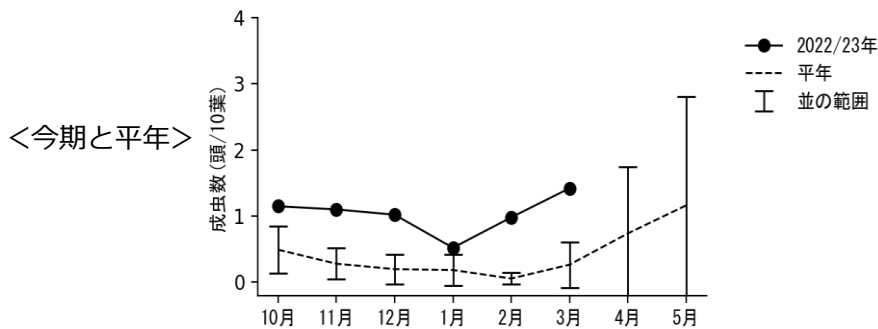
防除のポイント

- ・主に花に寄生し、多発すると産卵により果実へ夕部や果梗部が黒変する。
- ・発生源となる施設内外の雑草除去に努める。
- ・施設の出入口や天窓は0.6ミリ以下のネット等で被覆し、成虫の侵入を防ぐ。
- ・繁殖力が高く多発すると防除が困難になるため、初期防除に努める。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。
- ・天敵を利用している施設では、天敵に影響の少ない薬剤を選定する。

作物	ピーマン(施設)	地域	沖縄群島
病害虫名	④ タバココナジラミ		 <p>成虫</p>
調査結果	3 月の発生量 (平年比)	やや多	
予報	3 月からの増減傾向	↗	
	4 月の発生量 (平年比)	やや多	
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↗)	

調査結果

成虫数の推移




・発生施設率100% (平年：26.5%)、一部施設で多発

防除のポイント

- ・多くの雑草が発生源となりうるので、施設内外の雑草除去に努める。
- ・施設の出入口や天窗は0.6ミリ以下のネット等で被覆し、成虫の侵入を防ぐ。
- ・多発すると果実の着色異常やすす病を引き起こすため、早期発見・防除に努める。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避け、気門封鎖系等の薬剤も利用する。
- ・天敵を利用している施設では、天敵に影響の少ない選択性殺虫剤を選定する。

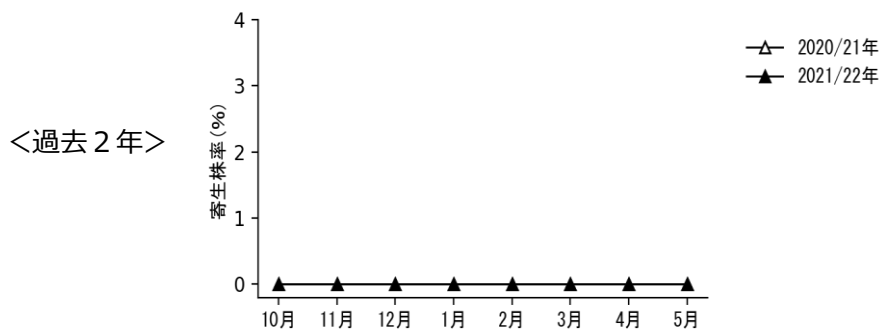
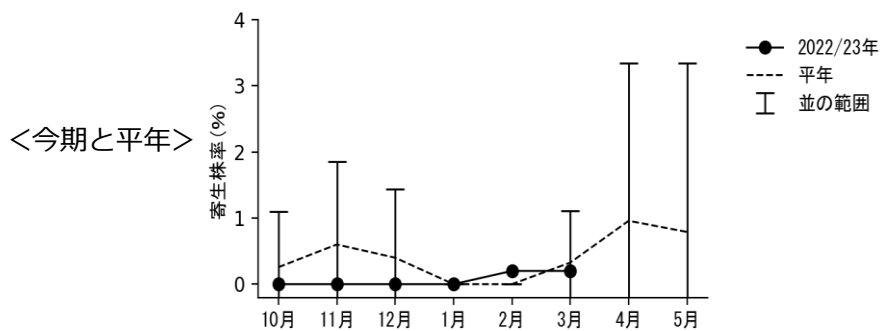


幼虫

作物	ピーマン(施設)		地域	沖縄群島
病害虫名	⑤ ハダニ類			
調査結果	3 月の発生量 (平年比)	並		
予報	3 月からの増減傾向	↗		
	4 月の発生量 (平年比)	並		
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↗)		

調査結果


寄生株率の推移



・発生施設率10.0% (平年 : 8.2%)

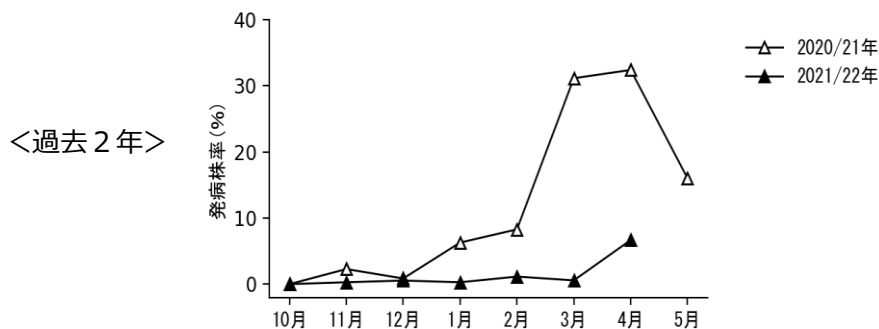
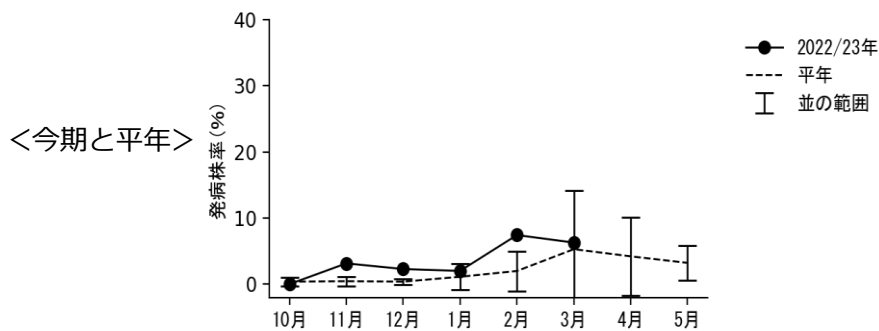
防除のポイント

- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。
- ・葉裏に多いことに留意しながら、丁寧に薬剤散布する。

作物	トマト(施設)		地域	沖縄群島
病害虫名	① 黄化葉巻病			
調査結果	3 月の発生量 (平年比)	並		
予 報	3 月からの増減傾向	↓		
	4 月の発生量 (平年比)	並		
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↓)		

調査結果


発病株率の推移



・発生施設率85.7% (平年 : 25.8%)

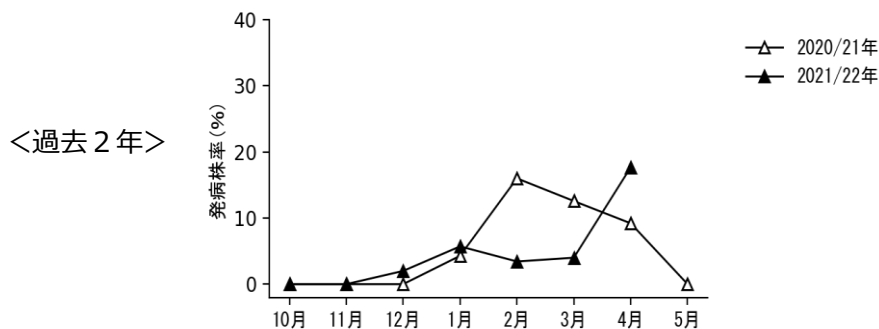
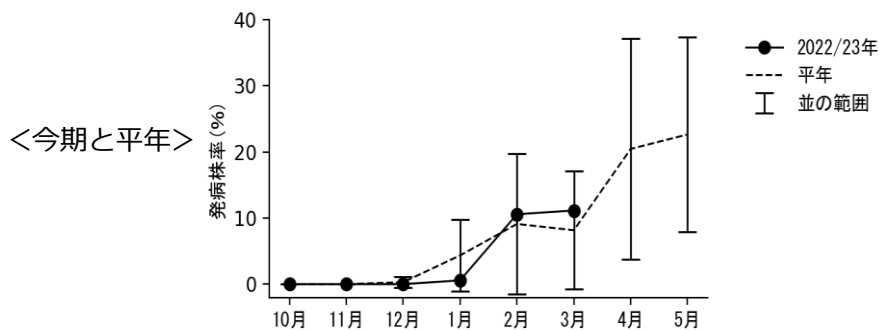
防除のポイント

- ・媒介虫であるタバココナジラミの防除を徹底する。
- ・感染株や摘葉残さは感染源となるため、施設外に持ち出しビニール袋に入れるなどして密閉処分する。
- ・ムラサキカタバミやノグシ等の雑草は本病に感染し、次期作の伝染源となるため除去する。

作物	トマト(施設)		地域	沖縄群島
病害虫名	② うどんこ病			
調査結果	3 月の発生量 (平年比)	並		
予報	3 月からの増減傾向	↗		
	4 月の発生量 (平年比)	並		
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↗)		

調査結果


発病株率の推移



・発生施設率71.4% (平年 : 34.8%)

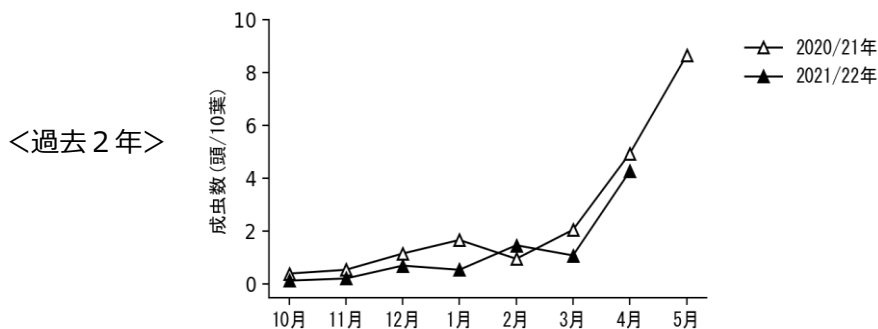
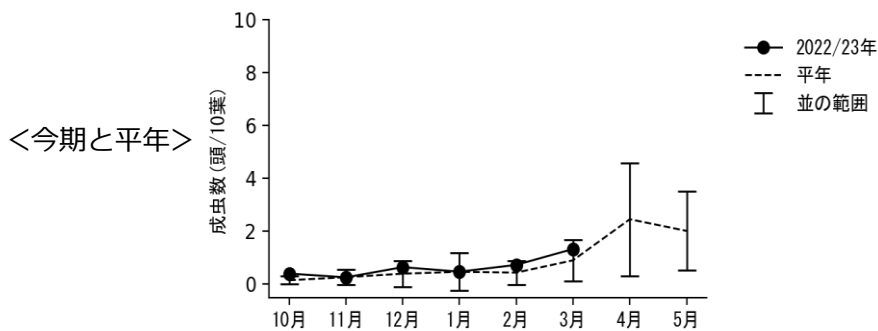
防除のポイント

- ・通風が悪いときに多発しやすいので、老葉を除去し、透光通風を良くする。
- ・多湿条件で発生し、その後乾燥が続くと被害が拡大するため、湿度管理に注意する。
- ・多発すると防除が困難となるので、葉をよく観察し早期発見・防除に努める。

作物	トマト(施設)	地域	沖縄群島
病害虫名	③ タバココナジラミ		 <p>成虫</p>
調査結果	3 月の発生量 (平年比)	並	
予報	3 月からの増減傾向	↗	
	4 月の発生量 (平年比)	並	
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↗)	

調査結果

成虫数の推移




・発生施設率100% (平年 : 51.5%)

防除のポイント

- ・本種はトマト黄化葉巻ウイルスを媒介する。
- ・多くの雑草が発生源となりうるので、施設内外の雑草除去に努める。
- ・施設の出入口や天窓は0.6ミリ以下のネット等で被覆し、成虫の侵入を防ぐ
- ・黄色粘着テープ等により、早期発見・防除に努める。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避け、気門封鎖系等の薬剤も利用する。
- ・幼虫は下位葉の葉裏に多いことに留意しながら薬剤散布を行う。

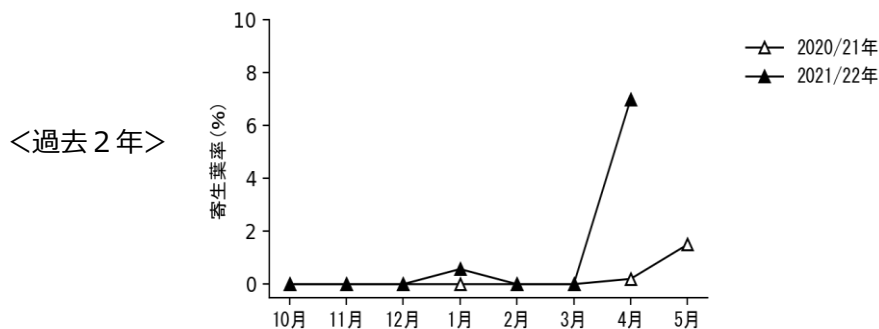
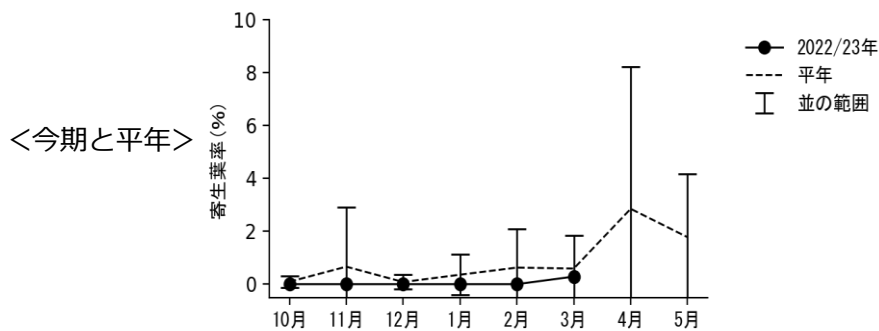


幼虫

作物	トマト(施設)	地域	沖縄群島
病害虫名	ハモグリバエ類		
調査結果	3 月の発生量 (平年比)	並	
予報	3 月からの増減傾向	↗	
	4 月の発生量 (平年比)	並	
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↗)	

調査結果

寄生葉率の推移




・発生施設率14.3% (平年 : 9.1%)

防除のポイント

- ・摘葉等による残さは成虫の発生源となるので、施設外に持ち出し処分する。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。
- ・幼虫期間が短いため、葉面に産卵痕や食害痕が見え始めたら防除を開始する。
- ・防除効果は幼虫の体色で判断する。生存時は黄色で死亡すると黒変する。

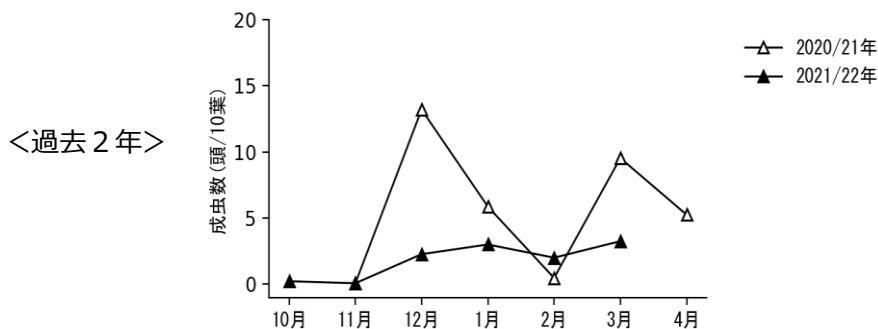
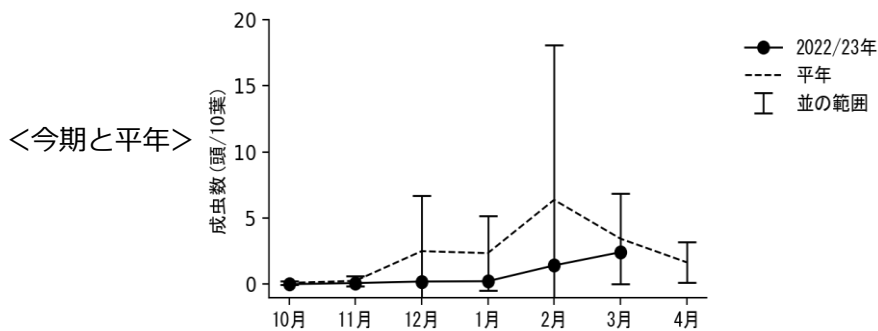
幼虫の死骸
(農薬などで死亡すると黒色に変色)



作物	さやいんげん(平張)		地域	沖縄群島
病害虫名	① ミナミキイロアザミウマ			
調査結果	3 月の発生量 (平年比)	並		
予報	3 月からの増減傾向	↓		
	4 月の発生量 (平年比)	並		
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↓)		

調査結果


成虫数の推移



・発生ほ場率100% (平年 : 69.0%)

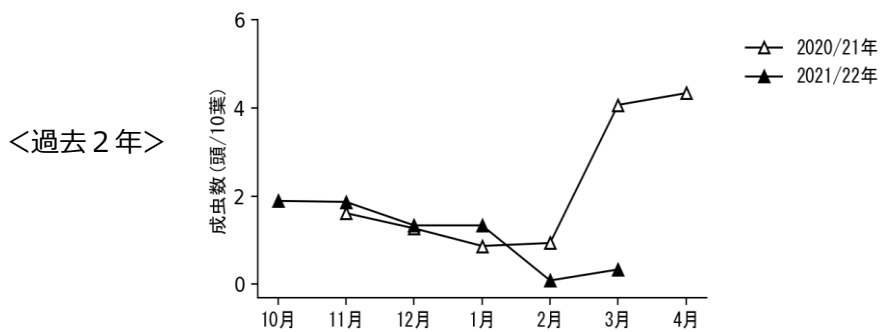
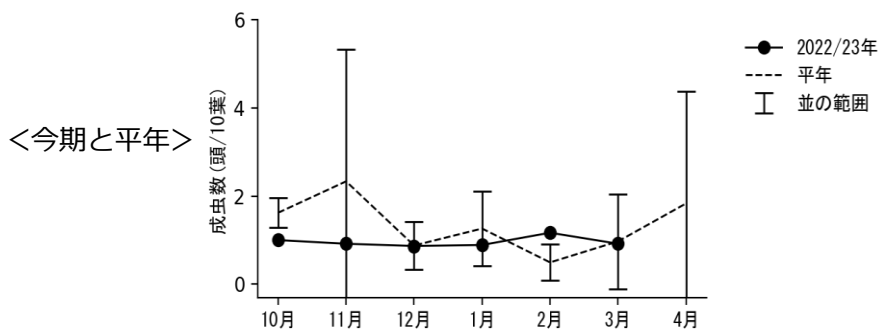
防除のポイント

- ・多くの雑草が発生源となりうるので、ほ場内外の雑草除去に努める。
- ・多発すると防除が困難になるので、発生初期の防除を徹底する。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。

作物	さやいんげん(平張)		地域	沖縄群島
病害虫名	② タバココナジラミ			 <p>成虫</p>
調査結果	3 月の発生量 (平年比)	並		
予報	3 月からの増減傾向	↗		
	4 月の発生量 (平年比)	並		
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↗)		

調査結果

成虫数の推移




・発生ほ場率75.0% (平年 : 64.3%)

防除のポイント

- ・多くの雑草が発生源となりうるので、ほ場内外の雑草除去に努める。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避け、気門封鎖系等の薬剤も利用する。

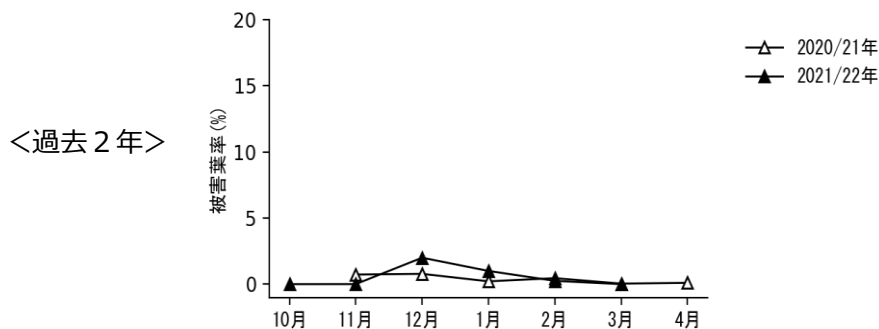
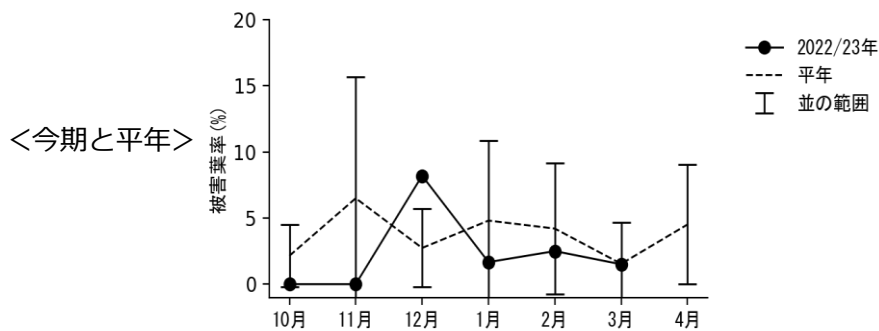


幼虫

作物	さやいんげん(平張)	地域	沖縄群島
病害虫名	③ ハモグリバエ類		
調査結果	3 月の発生量 (平年比)	並	
予報	3 月からの増減傾向	↗	
	4 月の発生量 (平年比)	並	
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↗)	

調査結果

被害葉率の推移




・発生ほ場率25.0% (平年 : 31.0%)

防除のポイント

- ・摘葉等による残さは成虫の発生源となるので、ビニール袋に入れるなどして、ほ場外に持ち出し処分する。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。
- ・野外に多数の在来天敵が存在するため、天敵に影響の少ない選択性殺虫剤を使用する。

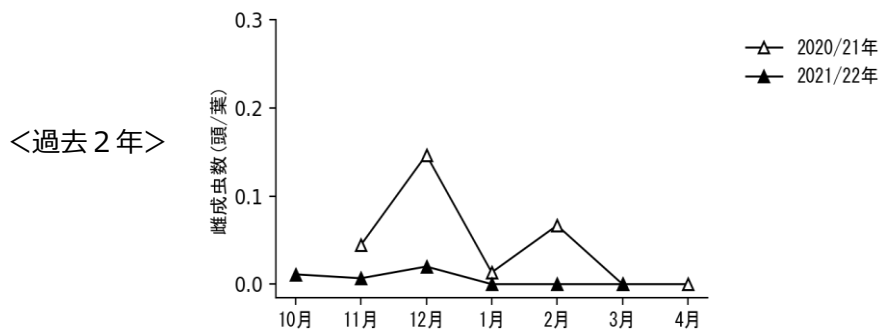
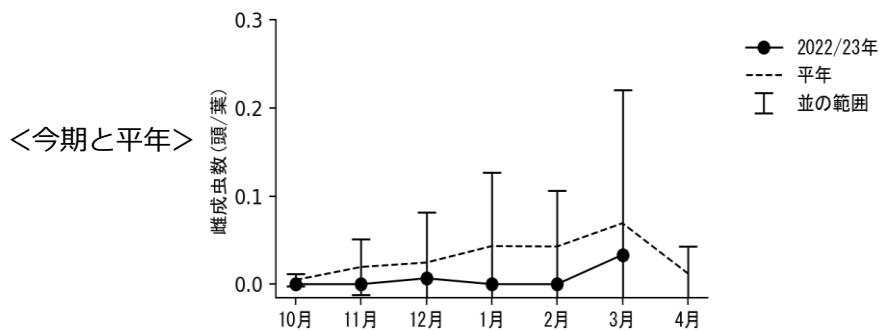


被害葉

作物	さやいんげん(平張)		地域	沖縄群島
病害虫名	④ ハダニ類			
調査結果	3 月の発生量 (平年比)	並		
予報	3 月からの増減傾向	↘		
	4 月の発生量 (平年比)	並		
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↓)		

調査結果

雌成虫数の推移



・発生ほ場率50.0% (平年：17.6%)

防除のポイント

- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。
- ・葉裏に多いことに留意しながら、丁寧に薬剤散布する。